

この夏の自由質疑討究講習に就て

倉 橋 惣 三

講師から與へられる講義を一齊に聽いて居るだけでは足りない。自由に質問もし、其答へに又質問もし、討究また討究、日頃の疑問に解答を得たいといふ事は、この講習會でも講習員諸君の希望に相違ない。又面白いふ風にしなければ充分の效果がないといふのが、近來の一般の意見でもある。それを實行して見やうといふ事になつたのである。ところで、計畫としては至極くいゝが、それを引受ける身になるに容易でない。さんな六かしい質問が出るかも知れないし、どこまで突込んで來られるかも知れない。そういったを一々應答してゆくのは千人力でもなくては出来そうもないことだ。教場の生徒なら質問の範圍も大抵きまつてる。講習會ではそんな譯にいかない。講師さまよりも経験の深い人も澤山居られるし、頭の鋭い方も大勢あるし、その上、問題が實際の上で生きてゐることばかりなのだから、うっかりした答へでは通らない。講義なら、皆さまお

分りで御座いませう。今日は先づ此の位で……。つまり、分らなければそつちが悪いんだでも濟むかも知れないが、實際問題なるに、そうはいかない。それに、之れが講師室の差し向ひでもあることなら、男講師ならハッハッハ。女講師なら、オホ、位の魔法もあるか知れぬが、何しろ全講習員諸君満座の中の應答なるに、扇子バチく位では切りぬけられそうもない。その上、その御當人は、假りにいゝ加減のところでまけ（勝負のまけ）ではない。何割方大まけのまけである（て下さつても、それに就て一寸伺ひますが……）が、この方角から飛び出して來ないことも限らない。それを何にか切りぬけたかと思つて汗をふく。先生、それはさき程のお答へに少々その……でも、やんわり突かれて御覽なさい。先生たるもの、汗は一時に冷汗に冷却せざるを得ないであらう。

然し、引受けた以上、其位の事は膽を落ちつけてかゝる

まして、もつこ心配してゐるのは、其場の運びがうまくいかさうかといふ事である。運びよいふのも可笑しいが、若し肝心の御質問が出なかつたら、それこそさうなるかといふことである。それこそ折角の千人力が間の抜けた事になる。御質問は御座いませんかなんて下手な村會議長の眞似でもさせられるやうな事になつたら、それこそ此頃のはやり言葉でいふダーになる。自分の事は柵にあけて、そんな取り越し苦勞も、ないではないのである。

そこで、此の夏の講習の保育問答陣に臨まれる方々豫めこゝでお打ち合はせがして置きたい。是非さうぞ、うんこで御座いますでは、此の講習の計畫が無になるといふものである。矢でも鐵砲でも持つて来いなんて強いことを言ふ譯ではないが、戦場の儀なれば、お互さま眞劍の立ちあひで、いくらでもお相手をいたします。折角、タスキハチャキで立つた以上、さあ来い來れ、ここからでもかゝつて來い

さばかり、チャンノバラノ思ひ切つて奮闘して見たい。見事切り込まれて、受ける太刀先きが狂ひさうになつたら、風は涼し、知らないことは知りません。分らないことは分りませんだけのこと。それでもまだ詰め寄つて首をころうといふ人もあるまい。

兎に角、此の夏の講習會の計畫を有效ならしめるか否かは、少くも半分以上、會員諸君に責任がある。責任といつては暑くらしいが興味があるといつてよからう。質問者といふよりも、問題提供者として、ほんさうに此講習會を賑かに充實させて頂きたいものである。また、假りに問題を提供しない方でも、大抵同じ様な日頃の疑惑に就て、講義の系統よりも、その問題の活きた興味で、討究を聽いてられることは、つまり御自身の問題である。少くともいつもの聽講のやうに眠むくはならない筈である。

この夏の本協會主催の講習の計畫に就て、何か誌上に書けいふことで、我が身にふりかゝつてゐる分だけ吹聴した。淡路講師、及川講師、戸倉講師の分に就ては、今更私に吹聴する必要もない。新味と實益とに於て、必ず講習員諸君を満喫せしめるものである。